

第2回日中韓教育大臣会合 共同コミュニケ（仮訳）

我々、日本・中華人民共和国・大韓民国の教育大臣は、2018年3月21日、第2回日中韓教育大臣会合に参加するため、日本・東京に集まった。

日中韓教育大臣会合は、2015年11月1日に韓国・ソウルで行われた第6回日中韓サミットの際、3か国の首脳が、3か国の相互理解と共栄の促進における教育の重要性を再認識する中、立ち上げが決定されたものである。

中華人民共和国教育部長及び大韓民国副総理兼教育部長官は、議長国である日本国の文部科学大臣による本会合の主催への尽力に感謝した。

我々は、日中韓三国協力事務局（TCS）が第2回日中韓教育大臣会合に参画することを歓迎し、3か国の教育協力の促進のためにTCSとの間の協力を強化していく。

我々は、3か国が教育分野での協力を深める事が、近しい隣国としてコミュニティの精神を共有する中で、地球規模の平和と繁栄に貢献する創造的人材を育むために必須であるという共通認識を再確認した。

1. 共栄の精神を育むための青少年・学生・生徒による交流の促進

1-1. 我々は、それぞれの国の異なる文化や生活様式を体験する機会を提供することにより、3か国の若い世代の人々の間で相互理解を促進することの重要性を再認識した。これを念頭に、我々は3か国の官民で行われる若い世代の交流を引き続き拡大・振興することを確認した。

1-2. 我々は、3か国の子供が、「日中韓子ども童話交流事業」などの創作活動に参加する機会によって、相互理解と友情を育むことの重要性を再確認した。

1-3. 我々は、第1回会合において創設が決定された3か国の大学生による交流プログラムにつき、第1回が2016年8月に韓国において、第2回が2017年9月に日本において成功裏に開催されたこと及び適切な時期に中国において開催されることを歓迎した。

2. 「キャンパス・アジア」プログラムの拡大を通じたアジア高等教育圏確立の促進

2-1. 我々は、2010年の日中韓サミットのフォローアップとして2011年よりパイロット的に実施され、3か国の学者・学生の交流、ダブル・ディグリープログラム及び共同コースを拡大してきた「キャンパス・アジア」プログラムにつき、2016年9月に本格実施が開始されたことを称賛し、引き続き推進していく意思を表明した。

2-2. 我々は、3か国の大学生が交流しやすい環境のために法的、組織的及び手続的な基盤整備のための協力を、TCSの協力を得て継続する。また、3か国の高等教育の質保証機関の共同による活動を称賛するとともに、TCSがフォーカルポイントとなって行う学位の相互承認に関する共同研究の実施について議論を開始し、高等教育における質の保証について引き続き重視し協力を強化する。

2-3. キャンパス・アジアの枠組に加え、我々は、3か国の大学間のネットワーク作りの機会及び協力強化のための中核的な協議メカニズムとして設立された日中韓学長会議につき、2016年に第1回の会議が韓国において開催されたことを歓迎し、今後も日中韓の大学の自主性とTCSの協力により、様々なテーマの下にこの集いが行われることを継続的に促進することに合意した。

2-4. 長期的展望として「キャンパス・アジア」プログラムがアジア地域一帯に広がることを願い、我々は、「ASEAN+3高等教育の流動性・質保証に関するワーキング・グループ」といった既存の政府間枠組みも活用しながら、その実現可能性についてさらに議論をしていく。

3. 世界の教育の向上に向けた日中韓の協力の強化

3-1. 人類及び世界の持続可能な発展にとっての教育の重要性を再確認し、我々は、国連持続可能な開発サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」及び2015年5月のユネスコ世界教育フォーラムで採択された「仁川宣言」を踏まえ、とりわけ持続可能な開発のための教育（ESD）及び地球市民教育（GCED）などの「持続可能な開発目標（SDGs）」に関する教育を通じ、SDGs達成のための人材育成に引き続き取り組むことを確認した。

3-2. 地域及び世界の教育の発展における日中韓の教育協力の重要な役割を認識し、我々は、特にユネスコ、ASEAN+3、東アジア首脳会議（EAS）、そしてアジア欧州会合（ASEM）を通じた多国間パートナーシップの強化へのコミットメントを再確認するとともに、韓国教育部の主催のもと2017年11月にソウルで行われたASEM教育大臣会合の成功を歓迎した。

我々は、第3回教育大臣会合を2019年に中国で開催することを歓迎した。